

氏 名	南 兌 坤
学 位 の 種 類	博 士 (工 学)
学 位 記 番 号	第 5081 号
学位授与年月日	平成 19 年 9 月 28 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項
学 位 論 文 名	集合住宅計画において駐車場が屋外空間に及ぼす影響 —韓国・日本における市街地立地集合住宅の比較—
論文審査委員	主 査 教 授 杉 山 茂 一 副 査 教 授 横 山 俊 祐 副 査 教 授 赤 崎 弘 平 副 査 講 師 徳尾野 徹

論 文 内 容 の 要 旨

本論文の目的は、駐車場設置と緑地等の確保を密度条件下におけるバランスの問題としてとらえ、日本、韓国における市街地立地集合住宅の現状を考察したうえで、集合住宅タイプ・建築年次別に日本事例の駐車空間の採り方を明らかにすること。また、韓国と日本事例の比較を通じ、韓国の集合住宅における集合住宅住環境に対する問題や課題を把握することである。

1 章では、論文の背景および目的について示した。

2 章では、韓国における比較対象地域となる大田広域市の集合住宅の現状を概観した上で、集合住宅計画に大きく影響する法規制に注目し、韓国と日本における駐車場設置基準の動向について整理した。

3 章では、日本の事例を商品企画と設計において、駐車場設置と緑地等の確保の判断が異なると考えられる集合住宅タイプをとりあげ、密度条件、駐車場設置率、駐車場が屋外空間に与える負荷と駐車方式について比較し、これにもとづいて駐車場設置と緑地等の屋外空間確保のあり方について検討した。

4 章では、駐車量との関係で駐車方式に着目した 3 章の継続で、より集合住宅の計画内容に踏み込んで分析を深めた。駐車場の屋内化の度合い、駐車場が屋外に占める割合を定量的に把握し、これと駐車位置、住棟配置の関係を分析し、これによって集合住宅タイプによる差異と問題点をより明確にした。

5 章では、3 章と 4 章の分析方法に沿って、韓国と日本との比較を進めた。ここではまず、2 章で考察した韓国大田広域市の集合住宅における駐車設置基準の変化と駐車空間計画との関係を分析し、駐車場の採り方の特徴を明らかにした。次に、日本事例との比較を通して集合住宅住環境に対する問題や課題を把握した。

6 章では、本研究の主な成果をとりまとめた。

論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

1990年代以降、日本においても韓国においても駐車場需要が高まり、これが集合住宅計画において大きな負担となっている。駐車場を屋外に設ければ緑地等はほとんど確保できなくなり、緑地等を確保すべく地下駐車場とすればコスト高になる。ここで、緑地等の確保を優先するかコストの軽減を優先するか、そのバランスをどうとるかは集合住宅計画の性格を規定するところが大きい。本論文ではこの点に注目し、集合住宅計画全体のなかでこの問題を把握できるように指標群の体系化を行って、これに沿って分析を進め、その結果、日本における各種集合住宅タイプにおける駐車場の採り方の違い、及び日本と韓国の違いを比較し、集合住宅計画の問題点と課題を明らかにしている。

本論文は 6 章からなる。1 章では研究の背景、目的等を述べ、2 章では日本と韓国における駐車場設置基準の動向を整理している。3 章と 4 章は、日本の集合住宅事例を対象として、作品性の高い事例と一般的な事例、

分譲住宅と賃貸住宅の密度条件下における駐車場の採り方を比較したものである。ここでは、いずれの集合住宅タイプも1990年代半ばから駐車場設置率が大幅に上昇するなかで駐車場確保のために緑地等が減っていること、作品性の高い事例は多く地下駐車場を確保しているのに対し一般的事例では屋外立体駐車が多く採り入れられていること、賃貸住宅では相変わらず屋外平面駐車が多いこと等を明らかにしている。5章では、韓国大田広域市における駐車場の採り方を分析し、1990年代から駐車場需要が急激に高まったのに対応して駐車場設置基準が強化され、地下駐車場の確保によって緑地等が一定程度確保されていること、一方で自動車保有に歯止めをかけることが課題になっていること等を明らかにしている。これらの研究結果を6章でまとめている。

本研究は、集合住宅計画における駐車場確保の問題を集合住宅計画全体のなかでのトレードオフ関係におけるバランスのとり方の問題ととらえて分析を進め、有効な知見を得ている。また、分析の枠組みとして考案した独自の指標体系は、論題にかかわる議論の展開にあたって、大きな可能性を有する。したがって、本論文の著者は、博士（工学）の学位を受ける資格を有するものと認める。